

プレスリリース

約8割のママパパが受動喫煙で嫌な思いをした経験あり! 株式会社コズレ、受動喫煙に関する意識調査を実施

2017年6月28日
株式会社コズレ

子育てに楽しさと新たな価値を提供する株式会社コズレ（本社：東京都千代田区、代表取締役：田中穰二郎、以下コズレ）は、全国のママパパ（含、妊婦）を対象に「受動喫煙に関する意識調査」（期間：6月23日～26日 有効回答者数1,050 質問方法：webアンケート）を実施し、その結果を本日、発表しました。

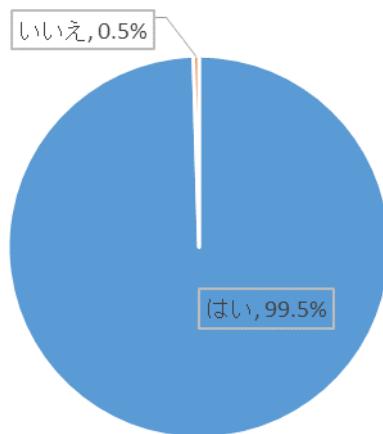
【調査結果概要】

- ママパパのほぼ全員が受動喫煙による健康被害を認知している
- 約8割のママパパが受動喫煙に関連して嫌な思いをした経験がある
- 受動喫煙対策を推進してほしい場所として、約7割のママパパが「路上」「飲食店」を挙げる
- 不特定多数が利用する施設に望む受動喫煙対策で、ママパパから最も支持を集めたのは「建物内完全分煙」
- 約8割のママパパが、受動喫煙対策に対する政党のスタンスは7月の都議選の投票に「影響する」「どちらかといえば影響する」と回答

【調査結果詳細】

- ママパパのほぼ全員が受動喫煙による健康被害を認知している

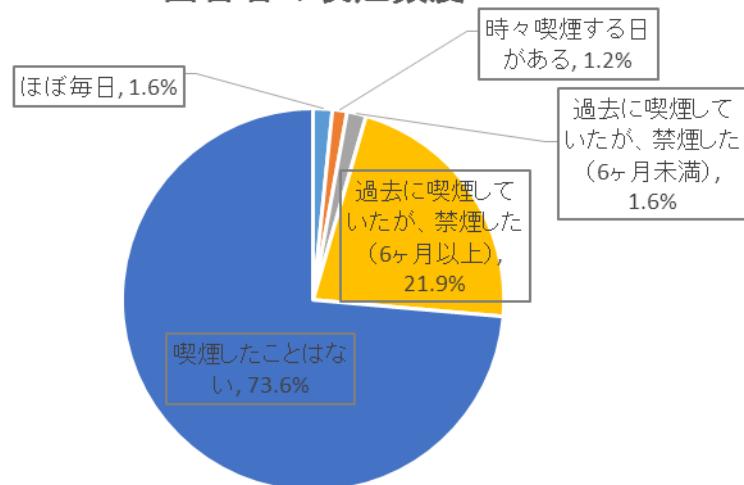
受動喫煙のリスクを知っていますか

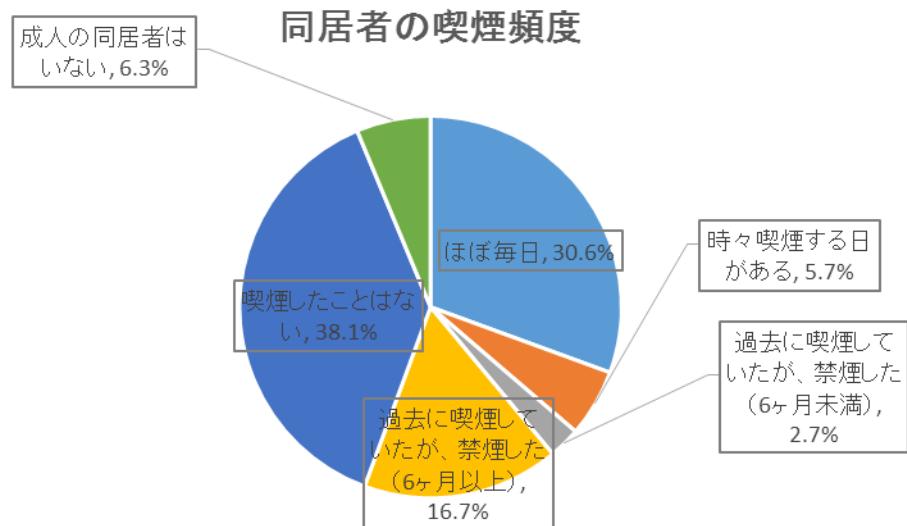


たばこの受動喫煙のリスクを知っているかの問には、ほぼ全員が知っていると答えました。子育て世代にとって、受動喫煙が妊婦、および子どもに健康被害をもたらすことは知っていて当然の知識になっており、この点に関しては政府や企業等の啓蒙活動が功を奏していると言えます。

- 回答者の約9割が現在は非喫煙者。一方で、約4割の家庭で同居者に喫煙者

回答者の喫煙頻度

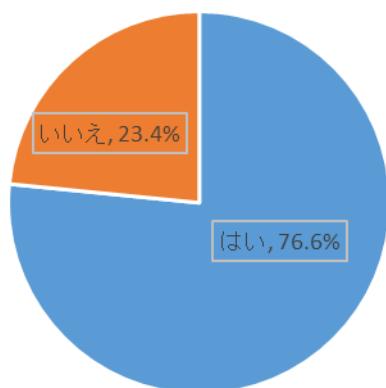




現在喫煙している人は 3%未満で、ママパパたちの中では禁煙が進んでいるようです。一方、同居者の喫煙頻度は、「ほぼ毎日」「時々喫煙する日がある」の合計が約 4 割を超えました。妊婦や子どもの受動喫煙を防ぐために、同居者とどうコミュニケーションを取り、工夫をしていくかが重要と言えるでしょう。

- 約 8 割のママパパが受動喫煙で嫌な思いをした経験あり

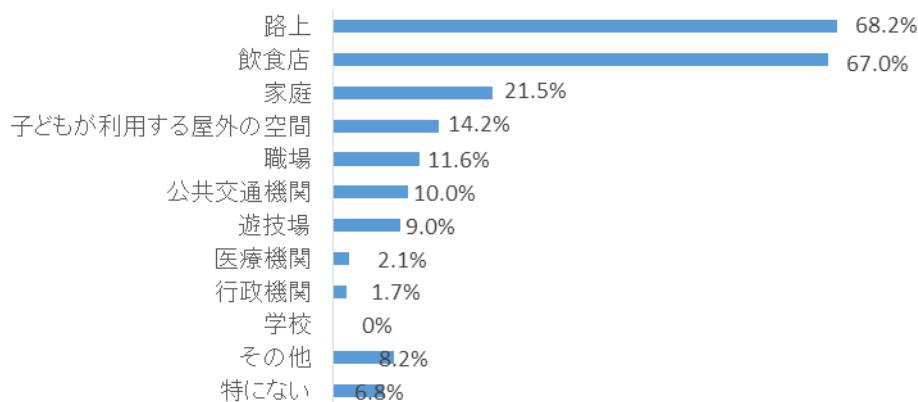
受動喫煙で嫌な思いをしたことがあるか



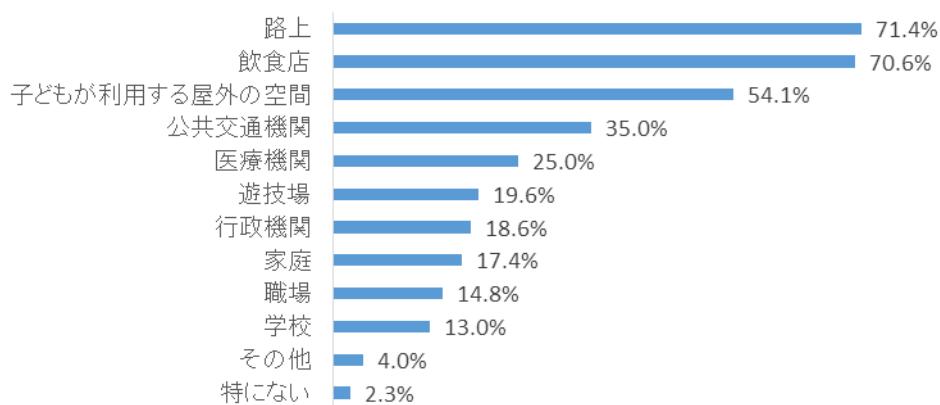
妊活中・妊娠中のとき、もしくは子どもと一緒にいたときに受動喫煙に関連して嫌な思いをしたことがあるかの問い合わせについて、約 8 割のママパパが「はい」と答えました。

- 受動喫煙を経験した場所・対策を推進してほしい場所として、「路上」「飲食店」が上位に

妊活中・妊娠中、生後に子どもが 受動喫煙を経験した場所(複数選択可)



より受動喫煙対策を推進してほしい場所 (複数選択可)



妊活中・妊娠中、あるいは子どもが受動喫煙を経験した場所、対策を推進してほしい場所のいずれにおいても、「路上喫煙」「飲食店」が約7割の回答を集め1位・2位になりました。

他方で、経験場所の設問で目立たなかった公園や通学路などの「子どもが利用する屋外の空間」が3位に入りました。違いが出たのは、「子どもが利用する屋外空間」。公園や通学路などの喫煙が気になるようです。

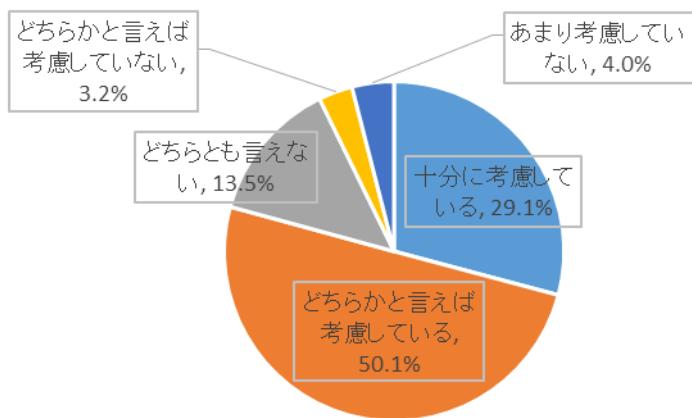
以下、低い割合にとどまった「公共交通機関」「医療機関」「行政機関」はすでに喫煙規制が進んでいます。また、「遊技場」もあくまで娯楽の場であり、生活に不可欠な空間ではありません。その点、「路上」「飲食店」は妊婦や子どもを含むあらゆる人が日常的に利用し、かつ現状喫煙規制が遅れている場所であるため、このような結果になったと考えられます。

「路上」で受動喫煙に関連して嫌な思いをしたときのことについて聞いてみたところ、「子どもと散歩中、通りすがりの人が吸っていた。子どもの顔の高さにたばこが来るのが怖かった」「コンビニの前にある灰皿の周りで、何人もの人がたばこを吸っていて、店内へ入るときどうしても煙を吸ってしまう」といった歩きたばこやコンビニ前の副流煙に対する不満が多く寄せられました。

また「飲食店」の場合、「妊娠中に飲食店で禁煙席をお願いしたが、喫煙席と禁煙席はガラス1枚で仕切られているだけだった。天井側は空いているため、たばこの煙で臭かった。つわりもあったので気分が悪くなりすぐに帰った」といった不十分な分煙への憤りの声が聞かれました。

- 約8割のママパパが受動喫煙のリスクを考慮した上で、おでかけ先を選んでいる

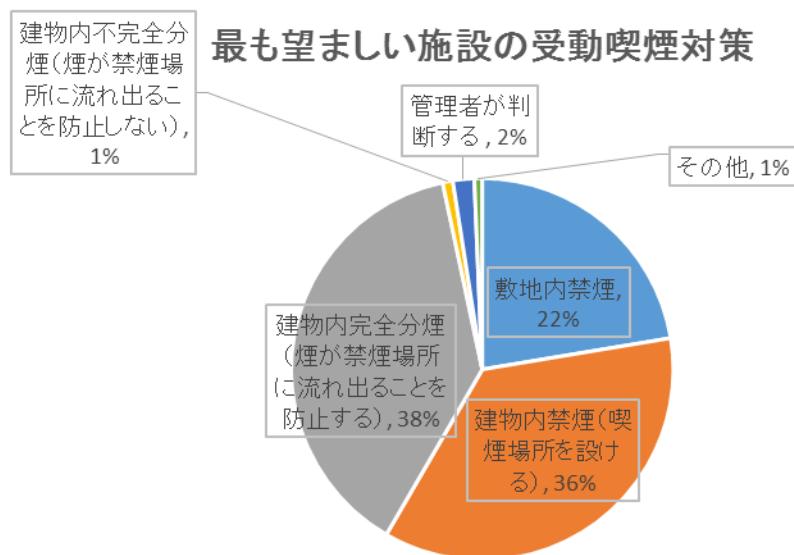
子連れでのおでかけ場所を選ぶにあたって、受動喫煙のリスクを考慮するか



子連れでのおでかけ場所の選定にあたって受動喫煙のリスクを考慮するかの問には、過半数のママパパが「どちらかといえば考慮している」と回答しました。「十分に考慮している」の回答者と合算すれば、約8割のママパパが受動喫煙のことを気にかけていることになります。

前問の結果と合わせて見ると、受動喫煙のリスクを気にして外食を躊躇している、というママパパもいると考えられます。

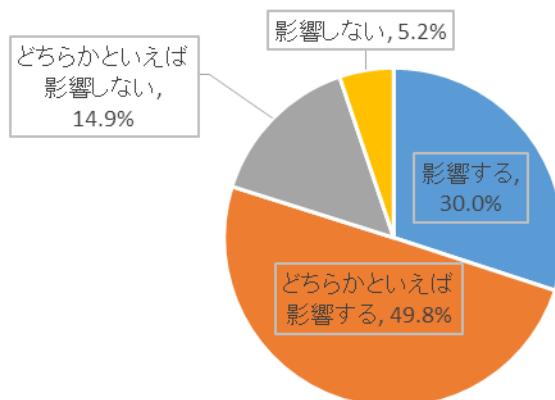
- ママパパが最も望む受動喫煙対策は、煙の流出を完全に防ぐ「建物内完全分煙」



不特定多数の人が利用する施設での受動喫煙対策について最も望ましいものは、1位「建物内完全分煙」、2位「建物内禁煙」、3位「敷地内禁煙」で、以下「管理者が判断する」「建物内不完全分煙」と続きました。喫煙室や喫煙ボックスといった設備投資のコストがネックとされる完全分煙ですが、喫煙者と非喫煙者の両方の立場を考えた折衷案として、ママパパたちからは最も多く支持を集めました。健康被害の認知はあっても、敷地内禁煙にこだわるのではなく、喫煙者の喫煙の自由もある程度は配慮したい、という非喫煙者の譲歩を読み取ることができます。

- 東京都による受動喫煙対策の動向にママパパも強い関心

都議選において受動喫煙対策に対する政党的スタンスは投票に影響するか



7月2日に投票が行われる東京都議会選挙では、飲食店における受動喫煙対策が争点の1つになっています。東京都在住者に受動喫煙対策に対する政党的スタンスが投票行動に影響するかの問には、「どちらかといえば影響する」が最も多く回答を集めました。「影響する」と合わせれば、約



子育ての喜びをもっと大きく！

8割のママパパが投票先を選ぶにあたって、受動喫煙の問題を念頭に置いていることになります。受動喫煙対策の問題はママパパにとって、強い関心を集めていることがうかがえます。

【まとめ】

今回の調査を通じて、ママパパたちが妊婦や子どもに深刻な健康被害を与えるかねない受動喫煙の問題に、強い関心を持っていることもわかりました。受動喫煙対策をめぐる議論は、今後も国政・地方政治の両方で活発に交わされることが予想されており、引き続き動向を注視していく必要があると言えるでしょう。

【株式会社コズレについて】

名称：株式会社コズレ/Cozre Inc. URL: <http://www.cozre.co.jp/>

所在地：東京都千代田区飯田橋2-1-4 日東九段ビル2F

役員：田中 穂二郎（代表取締役）、松本 大希（取締役）、早川 修平（取締役）

設立：2013年7月1日

ミッション：子育ての喜びをもっと大きく！

事業内容：インターネットメディア事業

子育てナレッジシェアメディア「cozre マガジン」<https://feature.cozre.jp/>

子連れのおでかけ情報に関する投稿・検索サイト「cozre コミュニティ」<https://www.cozre.jp/>

子育てナレッジシェアアプリ「コズレ」

受賞歴：東京都中小企業振興公社地域振興ファンド（第10回）支援事業、

経済産業省公募「創業補助金（地域需要創造型等起業・創業促進事業）」認定

<「cozre マガジン」とは>

2014年4月にスタートした子育てに関するナレッジシェアメディアです。自然体で子育てを楽しんでいるごく一般的のママパパがナビゲーターとなって、子連れ歓迎のカフェやレストラン、穴場の遊び場やお得に遊びつくす裏ワザ情報等を投稿します。現在登録されているナビゲーターは約900名。0歳から小学生低学年の子どもを持つ20代～40代のママパパを中心に全国で約250万人（月間ユニークユーザー）が利用しています。

【当リリースに関する報道関係者お問い合わせ先】

TEL:03-6265-6877 メール: pr@cozre.co.jp